



新任

異動のごあいさつ

●小児科  
山田 菜美(やまだ なみ)先生



こんにちは。  
7月より赴任いたしました山田菜美と申します。大阪府出身ですが、中学高校は和歌山県に通い、三重大学を卒業し、以降三重県で初期研修を経た後、小児科医として勤務しております。実は前任地である桑名市医療総合センターで勤務中も、週1回木曜日に、アレルギーについて学ぶため三重病院に来ておりました。お子さんや保護者の方に少しでも安心していただける様な医療を提供できる様頑張りますので、皆さまどうぞよろしくお願い致します。

●小児科  
羽根 将之(はね まさゆき)先生



7月より赴任させていただきますことになりました羽根将之と申します。  
東京医科大学を卒業後、順天堂大学医学部附属浦安病院で初期研修を終え、順天堂大学小児科に入局し、関連病院等で勤務していました。2024年から地元である三重県に戻り、三重大学小児科に入局し当院に赴任させていただくことになりました。  
当院で勤務させていただくことを楽しみにしておりました。精一杯頑張りますので、よろしくお願い致します。

●脳神経内科  
大久保 崇伸(おおくぼ たかのぶ)先生



7月より赴任させていただきますことになりました大久保崇伸と申します。  
関西医科大学を卒業後、鈴鹿回生病院で初期研修を終え、三重大学医学部付属病院脳神経内科へ入局後は鈴鹿回生病院、三重大学病院、三重県立総合医療センターを経て当院に赴任となりました。  
患者様が少しでも安心して治療を受けられるよう、これまでの経験を活かしつつ、心のこもった医療を提供できるように努めてまいります。  
どうぞよろしくお願い致します。

糖尿病ワンポイントアドバイス No.13

～治療薬による低血糖～

糖尿病は血糖値が高くなる病気ですので、血糖値を下げる治療を行います。特にインスリン治療やインスリン分泌を促す薬を服用している場合、薬が効きすぎると血糖値が極端に下がってしまうことがありますので、注意が必要です。

一般に血糖値 70 mg/dL 以下の「低血糖」になると、血糖値をあげようとして自律神経の反応による症状(動悸・発汗・手足の震えなど)があらわれます。これらの症状により低血糖を自覚できれば、ブドウ糖の補給などの対応が可能となります。しかし、さらに血糖値が低下して50mg/dl以下の「重症低血糖」になると、脳のエネルギー不足の症状(眠気・けいれん・意識消失など)を引き起こし、ご自身で対応することが難しくなります。自動車の運転や高所の作業中に重症低血糖になると、事故につながる可能性があります。低血糖をくりかえしている、重症低血糖を起こしたことがある、自

律神経障害があるといった方は、低血糖の症状に気づきにくい「無自覚性低血糖」になっている可能性があります。重症低血糖を起こしやすいと考えられます。

重症低血糖を予防するためには、規則正しい生活を心がけ、ご自身の低血糖を起こしやすい場面(食事量が少ない、運動が多い、入浴時間が長いなど)や低血糖症状について知っておき、早めに対応して低血糖を繰り返さないことが大切です。インスリン治療を受けている方は、血糖値の把握に持続血糖モニター(CGM)を利用するのがおすすめです。CGMには自覚症状が無くても低血糖になる前にアラートで教えてくれる機能もありますし、睡眠中に生じる低血糖の把握もできるようになるため、より安心して治療を継続していただけるようになると思います。低血糖が気になる方は、主治医にご相談ください。(薬剤科 調剤主任 山本 高範)

